

2016アジア選手権報告書

参加団体名：龍谷大学

氏名：鎌田 千徳

種目：舵手なしクォドルプル

1) レース展開、結果、反省点

男子舵手なしクォドルプルは参加クルーが、JPNを含めた5艇（UZB、IRI、CHN、KAZ）ということもあり、レースは2日間でした。今回、出場させていただいたクルーのメンバーは今年の日本軽量級選手権で優勝した、力と実績があるメンバーで挑みました。前日の練習では、レースレートパドルも4人の動きがうまく咬みあい良いスピードがでて、他国のクルーと戦う準備はできていました。

中国はアジアの中でも早いクルーで今回の大会の優勝候補でした。ですが、優勝候補だからといってめげるのではなくしっかりスタートから攻めていこうと話し合いました。レース1日目の天気は晴れで風もそれほどなくレースには良いコンディションでした。レース展開は、スタートは話し合っていたようにしっかり攻めることができ、スタートは他の国と肩を並べることが出来ました。ですが、オープンということもあり第1クォーターで1位のCHNと4秒も離されてUZB、KAZにも出られてしまいました。IRIには1秒差をつけて第1を抜けました。さらには、第2も第3も2秒差をつけて勝っていましたが、第4でIRIがスパートをかけてきて負けじとあげましたが最後はさされてしまい、1日目は5艇中5位という結果になりました。海外の選手は後半からがとて強く、IRIにも最後には3秒差をつけられてしまいました。最後にぬかされてしまうという一番悔しい結果となりました。レース後のミーティングではスタートはうまく決まったので次は、第1を1位通過できるようにこのまま攻め続け、レース後半も水中からレートをあげると意識を全員で再確認しました。そして、最後さされてしまったIRIを必ず倒そうと決めました。

レース2日目は、少し曇りでコースに追い風に風も吹いていました。2日目のレースは第1からすべてのクルーに出られてしまう苦しい展開になりました。IRIにも2秒もつけられてしまいました。ですが第2、第3ではそのタイムの差を縮め、ほぼ同時に通過していききました。そして、第4ではIRIが少し艇速が落ちたところを見計らい一気に攻め、IRIを責め立てさし返し最後は2秒差をつけ4位でゴールしました。

メダルを獲得するために頑張ってきましたがやはり、世界の壁は厚く海外の選手たちが強いことを痛感しました。ですが、私は海外の1つのクルーに勝てたことは選手たちにとってとても大きな自信になったのではないかと考えます。去年もアジア選手権を体験した選手も乗っていましたが、他の3人は海外の大会が初めてでした。帰国後は、すぐに全日本大学選手権がありますので、インカレに向けてアジア選手権で経験したことを活かして軽量級に引き続き優勝してくれると思います。

2) 国際大会を経験して良かったこと、困ったこと、今後のボート人生にどのように影響するか。

今回は、学生だけでアジア選手権に参加させていただきました。（選手4人+MG1人）学生だけということで不安はありましたが、とても良い経験をさせていただきました。

私は、マネージャーとして行かしてもらったのですが私も国際大会に参加するのは初めてでわからないことがたくさんありました。ですが、選手の人たち、さらには他に参加されていた他団体の監督、コーチの人たちに助けられ皆さんの協力があり無事に終わることが出来ました。国際大会は、日本の大会とは違い会場の雰囲気も独特でした、レーススケジュールがレースの前日に変更になったり驚くことはたくさんありましたが、国際大会のレースを見てとても良い刺激になりました。これを私たち参加した5人で留めるのではなく龍谷大学に戻った時に全員で共有しようと思います。そうすることで、龍谷大学端艇部自身のレベルアップに繋がるからです。